

令和 3 年度総務経済常任委員会抽出事業における事業調査報告

令和 4 年 4 月 13 日

1. はじめに

6月 28 日開催の総務経済常任委員会において自由討議を行い、新嵐山スカイパークについて、「町民に愛される場所」「観光客が訪れる場所」の視点を重点とし、この両面からしっかりと調査を進めるべきと確認した。また、町民の関心も高いと思われる『新嵐山の今後のあり方』について、検討を進めるべきであることを共有し、当委員会として本年度の抽出事業に選定した。

2020 年3月に策定された新嵐山活用計画(Rural inn,ザ・スカイパーク)に対し、前年度、「新嵐山活用計画に係る提言書」を町長に手交し、その後改討によって今後の方向性を示すリノベーション・プランにおいて整備年次及び施設等設置のための事業費が明確になったことは評価できる。今年度はコロナ禍の状況も踏まえながら計画の進捗状況及び町民、関係者等の意向について引き続き調査を実施した。

2. 政策課題

重点課題テーマ「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」
(令和3年7月 13 日(火)第5回委員会において決定)

新嵐山スカイパークの経営については、町直営(平成 13 年度まで)から指定管理者制度(平成 18 年度から)に改めながら運営を進め、現在に至っている。

令和2年度から新嵐山活用計画に基づく運営の見直しが始まっているが、新嵐山スカイパーク設置条例の目的にある、「町民の健全なレクリエーションと健康の増進をはかるとともに観光の振興に寄与する」並びに、第5期芽室町総合計画の中で示される「町民にとっても自慢のできる、誇ることのできる新嵐山スカイパーク」を目指して進められているか、また、計画の進捗や予算編成などについても調査し、町・町民の貴重な財産である新嵐山スカイパークを有効活用していくために、町民からの意見を丁寧に聞き取り把握し、活用計画の取り組みを検証することとした。

3. 取組事項

- ・ 令和2年度の提言書がどのように活かされているのかを確認する
- ・ 新嵐山スカイパーク全体的に現地調査を進める
- ・ 活用計画が進んでいる状況について町民からの意見を聴取する

4. 課題・政策

- ・ 改革の進捗状況の検証
- ・ 町民や関係団体の活用計画の理解度の把握
- ・ 町民ニーズの議会としての捉え方
- ・ コロナ禍における公共投資の予算化に対する議会としてのチェック

5. 現地調査(現状から見えてくる課題)

(令和3年8月3日(火)第6回委員会において実施)

- ・ レストラン・キャンプエリア・パークゴルフ場・キッズパークなどが、町民が利用しやすい運営状況となっているか。
- ・ 利用者の各施設に対する評価・意見を広く聴いて運営に活かされているか。
- ・ 今後改修が計画されているレストラン・宿泊施設については、新嵐山にはどのような施設が求められているか。

これらの課題解決に向け、町民・議会・町の3者で議論を重ねることが重要である。

6. 課題解決のための取組み

(1)新嵐山荘テナント3社との意見交換会(令和3年9月16日(水)オンライン開催)

令和3年度、指定管理者は活用計画に沿って新嵐山荘1階のウインターシーズンにおけるテナントを公募形式とし、契約内容も賃貸契約から運營業務委託契約とした。既存のテナント3社は出店公募にそれぞれ応募し運営計画を提出されたが、その後、指定管理者からは契約条件の変更(場所の移動、スペースの縮小、売り上げ手数料及び施設使用料の発生)など、新たな取り組みの説明や話し合いが進められ、変更事項や交渉期間の短さを含め運営委託契約締結に至らない結果となった。もっと歩み寄った中での話し合いがあればよかったということが、3社共通した意見であった。

(2)新嵐山株式会社(指定管理者)との意見交換会(令和3年10月6日(水))

新嵐山株式会社からは、「会社の最大の使命は、芽室町の方針である新嵐山スカイパーク活用計画の将来ビジョン、この町にしかない地域価値・景観・食・人が体感できる『リユラルインザ・スカイパーク』を具現化することである。そのために変化・改革・活性化を続けることが重要であり、改革にあたっては、サービス提供対象を町民限定とせず、いかに外部へと拡大していくかが新嵐山再生の鍵である。」「町民の福祉向上を基本としながらも、各方面への新たな誘客活動などを今期の運営方針として進めている。テナント3社については、従前の賃貸契約から委託契約に変更することの理解が得られず契約に至らなかった。これまでの経過を考えると一緒にサービスを提供するパートナーであるということも理解していただけなかった」との説明を受けた。

双方との意見交換から見える課題は、町が策定した活用計画をもとに改善・改革を進める新嵐山株式会社と既存のテナント3社や関係団体等との真摯な協議不足と考えられる。

新嵐山スカイパーク活用計画を進めるためには運営の方針及び変更等について、より丁寧に説明し、課題の共有を図りながら進めていくべきであったと考える。

(3)新嵐山スカイパークに関する委員会調査

～テナント及び新嵐山株式会社との意見交換を踏まえた委託者である町に対する課題整理～

(令和3年11月17日(水)第12回委員会)

町の重要財産である新嵐山スカイパークの大転換・大改革に際し、町の主体性が見えにくく、また、説明責任を十分に果たすべきであるとの観点から委託者としての町の見解を確認した。

Q1. 施設内の各事業スペースの配置転換や、軽微な改修・修繕等について、指定管理者に任せられる部分と、町の許可・同意を必要とする部分の線引きはされているのか。

A1.施設内の各事業スペースの配置転換や、軽微な改修・修繕等については、協定書 10 条に基づく協議の上で取り扱っており、軽微なもの等実施主体が指定管理者であるものは議会に説明をしていない。条例改正など議決事項に関することは、議会に情報提供や説明を行っている。
*大規模な改修・修繕「リスク分担(別途基準)」を参考に 60 万円をボーダーラインとしている。

Q2. 管理棟をレストランとして改修する計画が、既存テナントの移動場所に繋がり、事業継続が難しくなった要因との考えもあるが、町の見解はどうか。

A2.活用計画にレストラン移設を明確に位置付けている。施設内の動線確保がテナント移設の原因であり、町としては適切なプロセスを経ており問題はないものと捉えている。管理棟の改修計画が、既存テナントの場所移動につながり、事業継続が難しくなった要因との指摘もあるが、テナント移動は指定管理者としての運営見直しを検討し、効率的な施設内の動線確保と、施設を利用されるお客様にとっての利便性向上が目的である。

Q3. 公募の結果、既存のテナントが撤退等したが、後継となる事業所の決定過程で再公募としていないことについて、町の見解はどうか。

A3.公募により既存のテナントと協議を続けていたが、最終的には撤退となり、冬期間の営業運営を考えると再公募の暇がなく、新嵐山における事業意欲の表明が過去にあった事業者に打診したものである。この判断は新嵐山株式会社として民間に委ねるものであり、町が関与すべき事項ではないという見解である。

Q4. 民間事業者の協議で進めるべきことは理解するが、施設管理者・委託者として町が協議の支援などを行うことはできなかったのか。

A4.テナントと新嵐山株式会社という民間事業者の協議に対して、町が干渉等できるものではないものの、施設管理者・委託者として町が協議の方向性などを示すことについては、随時行っているが、民間協議の場に町が関与すべきでないというのが基本的な考え方になる。

指定管理者制度において、町の責任と指定管理者に委ねる部分の区分は重要事項であり、新嵐山スカイパークについては、代表的な観光資源であり町民の関心も高まりつつある。

大規模な新たな取組み・改革については、様々な混乱も想定される。町がどのようなスタンスで向き合うかという姿勢は、常に模索して明確にすべきである。

今後の新嵐山活用計画に基づく事業展開については議会としてしっかり議論をしていく。

(4) 新嵐山スカイパークに関するアンケート調査（令和3年 11 月）

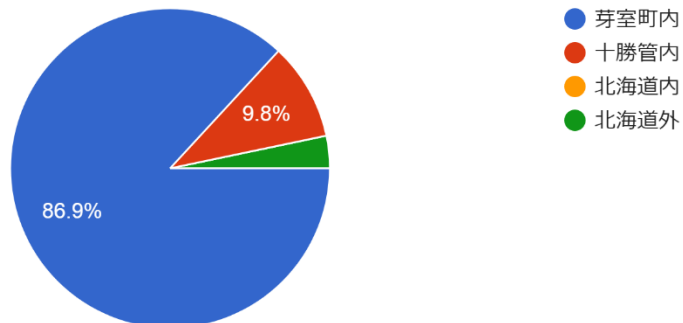
①調査の目的

町民や町外の方々の変わりつつある新嵐山に対する満足度や、理想像など考え方を把握し、これからの計画や予算などについて町との議論に活かすために実施し、61 件の回答を得た。

②調査結果

問1 お住まいはどちらですか？

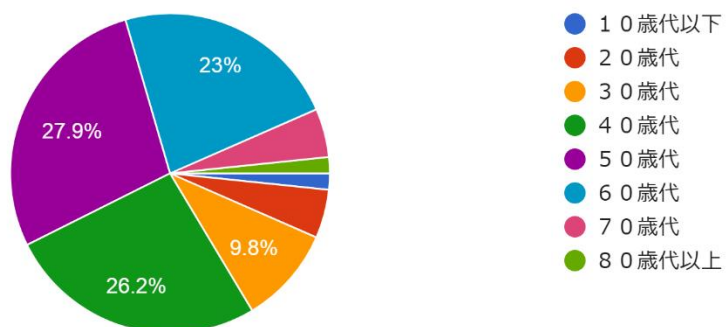
61件の回答



◆回答者の86%が町内在住。

問2 年齢（年代）を教えてください

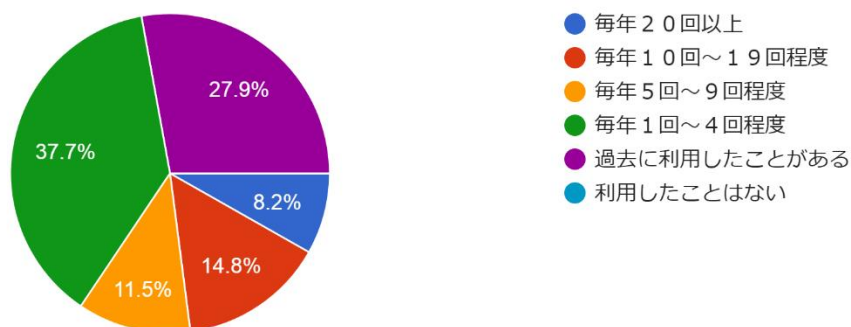
61件の回答



◆年代については、各年代ほぼ均等に分かれている。

問3 新嵐山スカイパークを利用していますか？

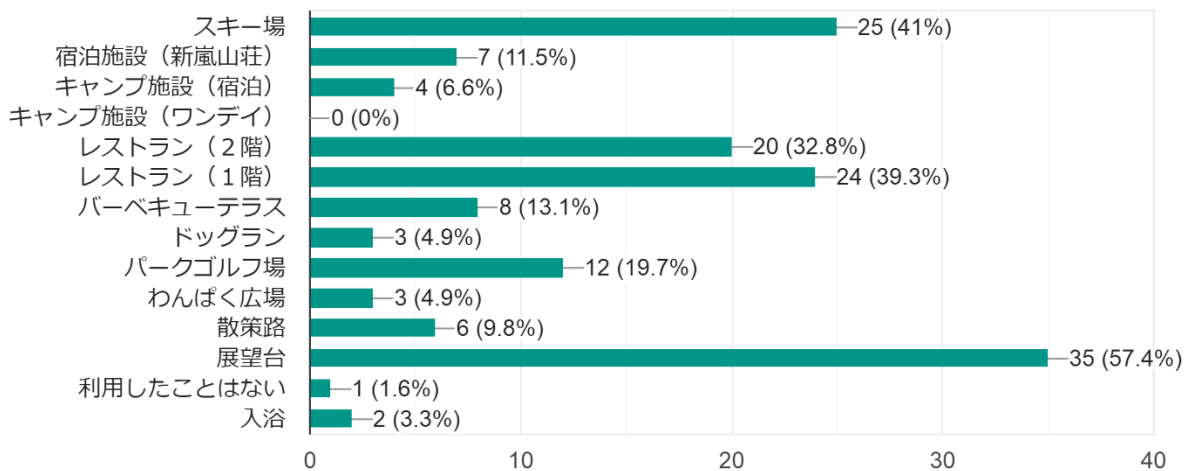
61件の回答



◆日頃から利用している町民の回答が多く、新嵐山スカイパークに対して関心の高い方々と読み取れる。毎年5回以上利用している回答の合計が、34.5%になる。

問4 主に利用する施設はどれですか？（複数回答可）

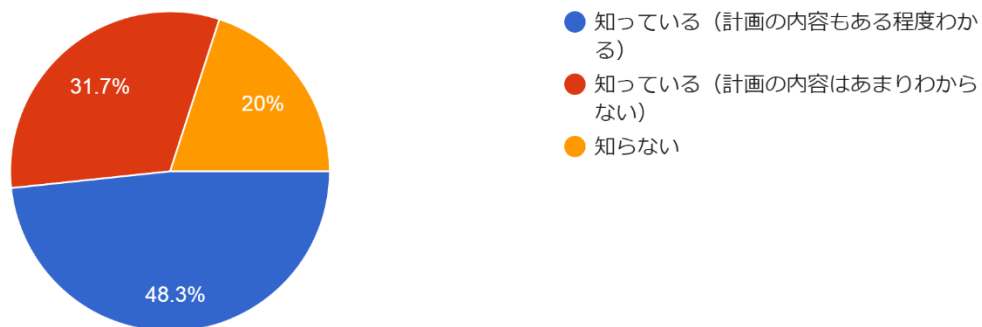
61件の回答



◆夏期に訪れる利用者は、展望台見学と各施設の利用がセットになっている方が多い。
冬期はスキー場の利用率が低い事が課題であるが、新規事業の利用が見受けられる。

問5 「新嵐山活用計画」を定めて、改革を実施中であることを知っていますか？

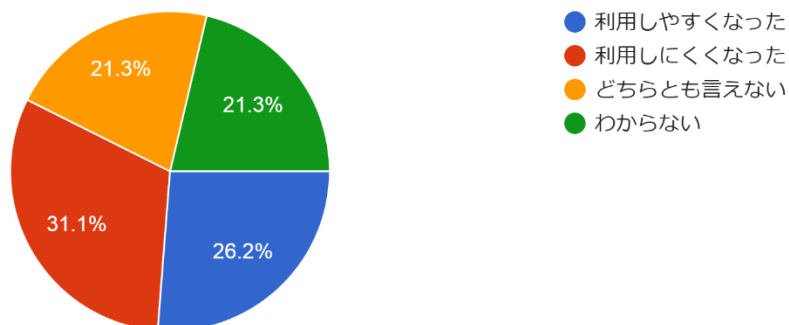
60 件の回答



◆新嵐山スカイパーク活用計画を定めて改革を実施中であることを 80%の人が知っている。
変わりつつある新嵐山スカイパークを注視している。

問6 令和2年度から改革を進めています。以前と比べてどのように感じますか？

61 件の回答



◆利用しにくくなった人が若干多くいるが、利用しやすくなった人と拮抗している。どちらとも言えないと答えた人は、今後の取組みを参考にしていきたいと考えているように推察される。改革への期待と不安が混在していると感じる。

問7 新嵐山スカイパークに望むこと(自由記載から)

- ◆利用しやすくなったとの意見では、「キャンプ施設の充実」を挙げる方が多い
- ◆利用しにくくなったとの意見は、「スキー場やリフト券売り場が使いにくい」、「レストランが高い、和食系がない」などが挙げられている
- ◆その他、キャンプ場に特化して宿泊施設の更新はしなくてもよい、子どもの遊べる遊具の充実と子ども向けのレストランメニューが欲しいなど、50 件の意見があった

7. 町民との意見交換会

(1)PTAとの意見交換会

芽室町議会基本条例第8条第5項に基づく町民との意見交換会は、コロナ禍の影響により、芽室 中学校(R3年 12 月 14 日)、上美生小・中学校(R3年 12 月 17 日)、芽室西小学校(R4年1月 12 日)の3か所の開催となった。

●芽室中学校での意見交換内容

- ・レストラン・キャンプ場などは、見た目は綺麗だが、地元目線を感じることができない。
- ・レストランメニューが高級になり行きづらく庶民感覚からかけ離れてしまった感じがする。
- ・リゾート化を目指し、外向きに改革しているように見える。内向きのメリットがなく、町民が離れていくのを危惧している。どこに目線を向けているのか、心配している。
- ・新嵐山は、通り道ではなく、新嵐山を目指して利用する施設。そんな行きたくなる新嵐山であって欲しいです。
- ・スキー授業がないので子どもはスキーを経験したことがない。無料レンタルなどの対策があれば子供のスキー人口が増えると思う。

●書面でいただいた意見

- ・今までよりもおしゃれな内装、メニュー設定となり、たくさんの観光客や町外の利用者にアピールすることは新鮮で、それにより利用者が増えることは、町民としてうれしい事と思います。一方で、本町の貴重な財産でもあるので町民がより利用しやすい工夫があると良いと思います。子どもたちからお年寄りまで全ての世代に愛されるため、町民の特権として割引や優遇等、またバラエティー豊かなメニューや料金設定があると、より利用しやすく利用意欲も増すのではないかと思います。個人的には、嵐山側としても芽室町の誇り、財産であるという自覚を持ち、芽室町民のための経営や工夫や施設運営を行っていただけたら、もっと愛される嵐山になるのではと思います。

●上美生小・中学校での意見交換内容

- ・地元には改革プランの趣旨が伝わっていないと感じる。取り組みをもっと発信してほしい。
- ・ターゲットが「町民ファーストからすべての人」になった。町民あつての新嵐山であり、税金を投じるならまずは町民の福利厚生を考えて欲しいです。
- ・経営を正常に維持するには、外部から人を呼び込む方法を考えるのは当然です。町内の人だけでは維持できない。
- ・改革を進めている中で、家族連れや若い世代が楽しんでいる様子が見受けられる。
- ・キャンプ場については身近な場所で自然環境が整備され新しい取り組みとして評価できる。
- ・綺麗なおしゃれな場所がアピールされすぎ。不便さを楽しむキャンプ場であって欲しい。
- ・パークゴルフ場が縮小されコースも単調で、距離が短く変化がなくつまらない。
- ・スキーは、生涯スポーツという社会教育の観点から子どものスキースクール入校に対して、助成があるとよい。
- ・従業員の質を高めることでリピーターは増えてくる。見栄えをよくしても「人をもてなす」という姿勢がなければ、人はリピーターにならない。

- ・日高山脈が国立公園化すると、観光客が増えるので、新嵐山に呼び込む施策がほしい。

●芽室西小学校での意見交換内容

- ・グランピングなど全体的に「おしゃれな」場所になってしまい、ターゲットは町民以外になったという印象を受ける。現状の改革については、いろんな人から賛否両論の声を聞いている。
- ・多くの町民の想いが詰まった施設なのだと思う。町からの発信(SNS・広報誌・HP)などの中に、一人一人の新嵐山への想いを汲み取る内容であると今後の改革を温かい気持ちで見守れる。
- ・新嵐山に思い入れのある町民が一堂に介して話し合う場が必要だ。話し合いが足りていない。
- ・展望台からの景観は、北海道で誇れる場所で、天空カフェの取り組みや、ナイタースキーでの夜景は素晴らしいです。大きなアクションを起こせば全国的に注目される。
- ・新しい施設を開発するよりも、今ある資源の活用を考えた方が良いと思う。
- ・新嵐山には、社会教育施設としての大きな役割があると思う。

(2)めむろスキースクールとの意見交換会（令和4年2月21日(月)）

活用計画に基づき管理・運営およびスキー場の改革が進むことに伴い、めむろスキースクールでは様々な対応策を講じたり運営の見直しが進められている。スキースクールからの申し出を受け、昨年度に引き続き意見交換会を開催した。

●主な意見内容

- ・降雪作業の難しさは理解できるが、既存機材での効率的な作業手法について、スキースクールの意見が反映されればゲスト目線でのコース運用が可能になる。
- ・降雪機能の移動型と常設型両方を稼働しているが、ランニングコスト、人材確保、機能性、などを考えると常設型の導入が望ましい。
- ・スキーは、生涯スポーツとして健康づくりの観点からも社会教育の分野に位置づけられる。冬季利用の活性化につながる観点でのリフト整備が、夏の利用にもつながるように進めるべきだ。
- ・事務所移転によりスキー場全体が見渡せず、ゲレンデの確認はモニター1台で行うことになった。スキー場における危機管理や緊急搬送等における対応を考えると管理棟の場所が最適である。
- ・これまでの無料スペースが無くなり、小さな子供連れの方が休憩したり、シニアの常連客が利用する姿を見かけ無くなったことに懸念を感じる。2階の研修室を無料開放しているが、積極的な案内もない。ゲレンデの様子が見えず不便であり、小さな子供連れの方からは、利用しにくいと聞いている。
- ・お客さんが利用しやすい売店の充実と、芽室町民が喜ぶ改革を希望する。

8. 総括

令和3年度に取り組む抽出事業のテーマを「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」と設定し、10ヶ月にわたって調査研究を行ってきた。

新嵐山荘のテナント3社からは、スキー場ロッジの創生期のお話から現在までのそれぞれのスキー場への想いや、テナントと、指定管理者との間で営業の継続を前提に協議を進めたが、今迄

の賃貸契約から委託契約に変更する合意形成には至らなかったことを伺った。長い間、新嵐山の発展に関わっていただいたことに、深く感謝申し上げます。

テナント及び新嵐山株式会社双方との意見交換会から見えることは、新嵐山に対しては外部から赤字運営の改善を求められ、活用計画を基に改革・変革を進めるべく実施していくが、現場内部のテナント・関係団体等は、改革を必要とせず現状維持の体制を求めていることである。

事業運営の見直しにおいて、直営的な事項には直ちに取り掛かり、内部関係者とは、常に新嵐山スカイパーク全体の発展のために一緒に成長戦略を考えるパートナーとして尊重しあって、「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」を目指した協議、運営を行っていただきたい。

PTAの皆さんとの意見交換会の中でいただいたご意見から、これからどの方向に向かって進んでいくのか、大きな期待と大きな不安な気持ちが入り交じった新嵐山への熱い想いを感じた。今後も、計画の進捗や予算編成などについてご意見を参考にして調査を進め、町の貴重な財産である新嵐山の有効活用を目指して取り組みたいと考える。

また、めむろスキースクールの皆さんとの意見交換では、創設期から現在に至るまでの経緯と、より良いスキー場として町民をはじめとする利用者に提供し続けるための管理運営に関する意見交換ができた。めむろスキースクールが技術向上の指導だけではなく、コースの維持管理、子どもからお年寄りまでの生涯スポーツとしての普及活動など、スキー場を通して芽室町のあるべき姿に向かって日々活動していることに敬意を表したい。

新嵐山活用計画に基づく改革が始まり2シーズンを迎えた。改革途上ではあるが、町の進め方と町民の想いに共有する部分が少なく、理解を得るまでには到達していないと考えられる。

第5期芽室町総合計画の基本方針に定められた「町民にとっても自慢のできる、誇ることのできる新嵐山スカイパーク」として、「子どもからお年寄りまですべての世代に愛される新嵐山スカイパーク」の実現に向け、また、町民が一年中押し寄せるような新嵐山の改革を目指した施設活用や認知度・利用度を高めるための創意工夫、住民に理解される財産の活用・投資が行われるよう、引き続き議会も改革の進捗について適宜調査を行い、住民との情報共有に努めていく。